



## 今月で折り返し点

### 体調に気を付けて、9月も元気に!

梅雨らしい、ジメジメした天気が続きます。コロナ感染も第9波かといわれ、まだまだ気を使った日々を過ごす必要がありそうです。8月は全講座お休みです。猛暑?を乗り切り、9月元気にお会いしましょう。

後半の日程・会場を別刷りでご案内しています。ご確認ください。

### 6月の「ひとこと感想」より

「隣室の声が大きく聞こえて集中しにくかった、会場の取り方を一考してほしい」という声が複数ありました。せっかくの講義をしっかりと聞きたいというのは全くその通りですが、大変悩ましい課題です。市民交流プラザは駅近ということもあって人気が高く、すぐに予約が埋まっています。できるだけ早く予約するように努力していますが、キャンセルが出ていないかチェックもこまめにしていますが、間仕切り壁の部屋しか取れないことも多いのが現

◆9月から傷害保険による補償が始まります。(このための個人負担は発生しません。)

講座に参加するために自宅を出てから、受講中、受講後帰宅する(寄り道しないでまっすぐ帰る)までの間に生じた事故について、補償します。万一事故にあれば、速やかに事務局(080-2511-1751)にご連絡ください。

状です。隣室同士互いに配慮するようにしたいものです。

## 6月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのもあります。ご了承ください)

一つ一つの確かめができた。しかし、どうすればよいのか、よくわからない。

「領土」とは何か。線がなければ侵略もない?

### ◆時事問題講座 6月6日

#### 「ロシアのウクライナ侵略と今後」 講師：鈴木元氏

どのような理屈をつけようが、ロシアのウクライナ侵略は容認できない、という所から講座は始まった。

ロシアのプーチン大統領は一週間で全土占領、併合できると読んでいたが、ウクライナの反撃で首都をあきらめ、南部、東部戦争に集中している。

歴史的に、侵略する側は何の成果もなしに引けないと、10年単位で長期化してきた。又、侵略された側は、軍事支援を受け、大義に基づき世界の支持を得てきている。

現在、国連では、ロシアへの抗議決議に、中国、インドが棄権し、インドから呼びかけられたグローバルサウス125カ国は、ロシアとの経済的結びつきを求め抗議決議に反対している。この戦争が長びけばアメリカの経済打撃がより大きくなるだろう。

このような難局の侵略戦争の中、日本としては、資源、食料の自給率を上げ、最先端科学で世界の前に出るという国家目標を持って臨むべきである。

発展途上国日本はこれからどうなるのでしょうか。戦争の準備どころではありません。日本はいまだに世界の先進国だと勘違いしています。もう一度、農業、林業、漁業から立て直すことが大切だと思います。

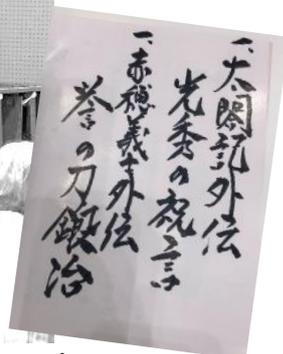


◆寄席芸鑑賞講座 6月8日  
「講談を学び楽しむ」 講師：旭堂南龍氏

講談とは、歴史を扱った伝承芸で、歴史は「能」の次に古く 550 年も前から続いている。明治までは「講釈」と言われていた。まだ識字率が低かった時代、講釈師が文字を読みながら語っていた…と言うか読み聞かせていたが、その後、田辺南窓が暗記して喋った事から客が殺到する人気の芸に。

講談と浪曲は似ているが、史実をもとにした物語を語る講談のネタに、三味線、節を付け情緒豊かに演出された物が浪曲に。講談は、講談師 50%お客さんの想像力 50%で 100%楽しめる物になると仰っていました。

実践では、「太閤記外伝 光秀の祝言」「赤穂義士外伝 誉の刀鍛冶」を聞かせて頂きました。その迫力たるや、会場は静まり返り、皆さんすっかり世界に入り込み、食い入るように楽しませていました。(余談ですが、南龍さん 43 歳 超イケメンでございました。)



講談が歴史のことはなすということもしりませんでした。南龍さんの世界に引き込まれてあっという間の時間でした。

若く勢いがある話でわかりやすい内容の深さにひきこまれ、心うばわれる思いで聞き入りました。

迫力ある演技に聞き入りました。楽しくも心落ちるところもあり、なかなか講談も面白いと興味を持ちました。

◆写真講座 6月20日  
「あじさいの撮影」 講師：四方智基氏



今年は花がたくさん咲いていて、暑い中でしたが撮りがいがありました。

いろいろな所に行けてとても良い気分転換に。少しずつうまくとれるようになって楽しい。

紫陽花寺で有名な観音寺を訪ねました。籠堂という部屋を借りて、5月に撮影した新緑の写真をみんなで振り返った後、紫陽花の撮影方法の講義。紫陽花シーズン真っ最中、梅雨の晴れ間で外歩きには好都合ですが、テーマである「水に濡れて生き生きとした、自然の色を優しく映し出す」には少し都合が悪いです。そこで「水スプレー」シュッと一吹きして撮影する裏技?など教えていただきました。同じ紫陽花で、カメラの横向き・縦向きで撮ってみる=空間が変わると印象が変わる、などの課題もいただき、小一時間境内を撮影に回りました。

一つの紫陽花を、上から下から右から左から、離れたり近づいたりしながら撮っているとあっという間の1時間でした。

撮りごたえがありました。少しずつですが勉強になります。

紫陽花の「色」を写すのが難しい…。



◆歴史講座 6月21日

綾部市奥上林の歴史「光明寺まるごとみせます」

講師：大関美沙氏



綾部の上林で長く生活した者でも、行ったことはあっても詳しくは知らなかったことが多く、目を開かれたと思います。

二王門だけが価値あるのかと調べていたら、お宝満載のお寺だったんですね。

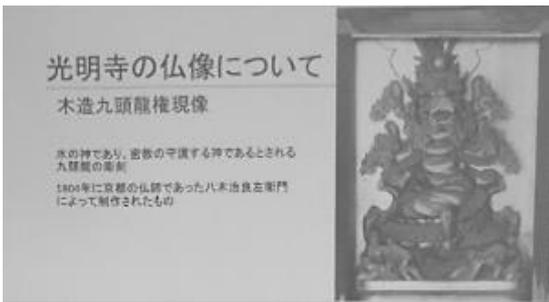
綾部市奥上林の光明寺、この寺の名前を知っている方は多いでしょうし、実際に訪れた方も多いと思います。

光明寺は聖徳太子が草創したと伝わる真言宗の寺院。今回はこの光明寺を深堀、綾部市資料館の大関美沙氏から国宝に指定されている二王門をはじめ、光明寺を取り巻く多くの貴重な資料について詳しく教えていただきました。

講義の内容は光明寺の建物、仏像、古文書、二王門、金剛力士立像、二王門の棟札・扁額ほか多岐にわたるとともに、初めて知ることが多く大変興味深く聞かせてもらいました。中でも、二王門にかかっていた扁額が元和2年（1616年）に盗まれ、その後、京都の二条で売りに出されていたのが発見され、光明寺が買い戻したという話。二王門の上層に架けられていた大きな扁額をどうやって盗んで京都まで運んだのか、京都で売られていることがどうして分かったのかなど、あれこれ想像を巡らすことができる不思議な話でした。

また、平成30年度から光明寺が京都府立大学の地域貢献型特別研究の対象となり、この研究を通じて古文書や仏像など多くの新発見もあったようです。

今後、奥上林の歴史について更に新たな事実がわかってくるかも知れません。



郷土の誇りである光明寺のことを改めて知ることができました。地域の方々が大切に守ってこられたお寺です。これからも今まで同様大切にしていかなければならないと思いました。

◆自然科学講座 6月15日

「田倉山火山を歩く—昆虫・樹木の話」

講師：小滝篤夫氏/山段眞彦氏/西原昭二郎氏

今回の講義は、京都府で唯一の火山である夜久野の田倉山（宝山）での屋外で行われました。当日は雨が心配されたため受講生の出席は少なかったのですが、講師3名の陣容で受講生2人に講師1名という豪華なものになりました。地学、生物学、植物学の3名の方にそれぞれの分野の説明を受けたり質問をしながら、田倉山山頂を往復しました。

ヒル（丘）サイズの山でありながら溶岩台地の夜久野高原を見渡すことができ、この高原が昔ながらの姿を保てたのは、田倉山の安息角と当地に大きな川がなくスコリヤという噴火の堆積物（水を通しやすい地質）が流失しなくて済んだからだそうです。又、この講座で以前に話された地層は、鹿児島湾の始良（あいら）カルデラの大噴火によって飛来してきて出来た土だということは、自然の偉大さを感じました。

山頂から別ルートでの帰途には、ほぼ出席者全員が蛭にまわりつかれました。ヒルに入り蛭による被害を受けてしまいました。行きはよいよい帰りはこわいでした。\*年のため、病院に行くほどではありませんでした。

身近に素晴らしいところがあり、新たな発見でした。これからは意識して山歩きをします。



宝山の自然についていろいろ学べて楽しかったです。岩石、植物、昆虫の専門家の説明があってよく理解できました。火口跡付近でのヒルの攻撃には弱りました…

## ◆漢字学講座 6月22日

### 漢字の謎②「食」は「人」に「良」もの?!」

講師:久保裕之氏



食という文字は人に良いものかという検証からスタート。その結果ヒトヤネでできた文字は人との関係のない文字が多いということがわかった。食という文字はお供えの器にご飯をいれ、蓋をした形であるということである。食に関する五穀の文字、魚に関する文字、肉に関する文字、野菜に関する文字、それぞれにとっても興味ふかいものであった。それにしても甲骨文字のおもしろさはその素朴は表現によるものであるということがわかった。

やはり漢字は自由な発想が必要、書き順が好きなようにいいというものなかなか魅力的である。

古典原文が出てくると一番面白い。

「筆順が決まっていない」ショックでした。必死になって覚えたのに、何だったの?て感じです。

質問の時間があると良い。

内容は難しいですが、興味深い。



## ◆すご技講座 6月28日

### 「京都府北部のものづくりを知ろう」

#### —北部産業支援センターを訪ねる

受講生の大半が知らなかった北部産業技術支援センターを今回、見学をしました。同センターの宮内室長さんから同センターの設立の経過や概要をパワーポイントで説明していただきました。説明、休憩後、二班に分かれて同センターの試験機器について説明を受けながら見学しました。

京都府の中小企業技術支援センターの分室として平成19年、綾部市に電源立地法補助金を活用して誕生し、平成30年に北部産業創造センター内に移され、今日に至っています。

受講生の感想にもあるように、綾部駅北口に隣接している建物内にあることは知っている、何をしている所なのか分からなかったし、中に入ったこともなかったなかつた……。中小企業の技術支援、人材育成、商品開発支援などを行っており、建物内にはX線分析、ガスクロマトグラフ質量分析、3Dプリンター、電子顕微鏡、聞いたこともないEMC試験、三次元光学プロファイラー、EBSD機能等々。府下でここにしかない振動試験機、そしてCAE（コンピュータシミュレーション）ソフト内蔵のサーバーなどが有料で使え、北部の中小企業の技術力向上に貢献されている施設であることが分かりました。個々の試験機器を理解するには少し難しい内容でした。



身近にこのような中小企業の力強い味方があるのを初めて知りました。

内容的には難しくてきちんと理解できませんが、産業の支援をされていることを知ることができ、有益な経験でした。技術や機器の進歩のスピードが速い現代、常に先進的な状況（人材、設備機器）を維持更新していくことは資金的にも大変だろうと拝察します。

私たちが使っているものが、いろいろな試験を経て、安全な製品として商品となっていることが分かりました。

地域産業へのサポート体制がよく分かりました。

